

Y's Men International
Y Service Clubs International

YMI

WORLD



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

Only for private distribution to members



カバーストーリー：ムン・サンーボン次期国際会長が国際赤十字赤新月社連盟を訪問／RBMの行動／多くのことがなされてきたが、まだもっと多くのことがなされねばならない・引用：基金増強が緊急に必要・活動報告・私たちのモットーの考察・各地域からのニュース・歴史の一片：ヘンリー・グライムズー私たちの運動の羊飼い・憂うべきこと：食料の浪費をなくせば世界の飢餓を救える／英国では「孤独問題」担当大臣を任命・現実の検証・マックス・エディガーによる朝鮮半島の平和



読者の皆さまへ



毎年4月25日は世界マラリアデーです。マラリアは私たちのほとんどが、自分たちが生きている間に撲滅されることを望んでいる伝染病のひとつです。YMIのメンバーとしてロールバックマラリア(RBM)の仲間の他の組織と一緒にこの日を守っています。「マラリアに打ち勝つための準備」が今年のテーマであり、マラリアの無い世界を確かなものとするために、世界中の人たちが一体となって力を注ぎ、運動に参加することの重要性を示しています。

今号のYMIワールドでは、冒頭でRBMとそれについてのYMIの対応について、要を得た情報を掲載しています。私たちの献金を、蚊帳を購入するためにRBMおよび国際赤十字赤新月社連盟を通じて手渡すことが出来ていることを誇りに思います。

また、今号では、私たちの年長のリーダーの内のふたりに、私たちのモットーである、「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」について熟考いただいたことを嬉しく思います。YMIの創始者であるポール・ウィリアム・アレキサンダー判事によってまさに造り出された、このとても意味深い言葉の大切さを私たちはいつも心に留めておくことが必要と思います。

地域やクラブからのニュースについては、私たちの運動の様々な場所から、私たちのメンバーがどんな活動に携わっているかを集めることができました。

この号では、食料の浪費と孤独というふたつの関心事、課題を特に取り上げました。前者は、既に起こっている大きな現実であり、私たちが前向きに立ち上がることによって対抗できますが、後者は、多くの社会において新たに生じ始めている現実です。このふたつの現実に向かっているかによって長い目で見て、私たちの将来が決まることでしょう。

最後に、「魂の真言」はお休みをいただきます。しかし、マックス・エディガーからは朝鮮半島の紛争地域を訪問した際についての良いエッセーをもらいました。韓国、北朝鮮の両国がその地域においての平和について話し合いのテーブルに就くことの意味を表明しているという希望のサインが見られている中でのタイムリーな話題です。希望を持ちつつお別れいたします。

ワイズリー

コシー・マシュー

表紙:YMIの献金をRBMに手渡ししているところ。左から右へ、ジェイソン・ピート(国際赤十字赤新月社連盟)、ジェミラ・マハムッド(同)、次期国際会長ムン・サン・ボン、リー・ハイ・ソック夫人

私の本棚から

与えること:いかにして私たちひとりひとりが世界を変えられるか:ビル・クリントン著

ビル・クリントンからの行動への呼びかけです。「与えること」は、私たちそれぞれがいかに世界を変えられるかについて鼓舞してくれます。初めに、今、企業や組織—そして個人において、問題を解決するため、街角のそして世界中の人々の命を助けるために驚くべきで革新的に行われている努力を示しています。そして、人々の夢を実現する機会を助け、与えるため、収入、時間的な余裕、年齢、スキルに関わらず、私たちそれぞれが、何ができるかを探し求めることを促しています。

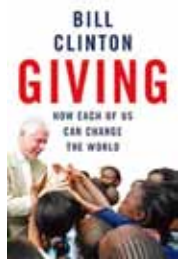
ビル・クリントンは、彼自身および非政府、非営利の活動の世界的潮流を代表する他の人々の経験を私たちと共有しています。これらの注目すべきストーリーでは、時間、スキル、物そしてアイデアを捧げることは、金銭の寄付と同じくらい重要で効果的であるということを示しています。ビル/メリンダ・ゲイツからコミュニティーで浜辺の清掃活動を組織し、リードした6歳のマッケンジー・スタイナーという名のカリフォルニアの女の子まで、クリントンは有名、無名の与える英雄を紹介しています。その中で例を挙げると:ポール・ファーマー博士:トレーラーハウス用の駐車場の家族のバスの中で育ち、貧困者に高品質の医療を提供することに生涯を捧げることを誓い、ハイチにおいて最初の革新的な公共医療クリニックを建設し、ルワンダにも建設しました。

アンドレ・アガシ:ラスベガスの近所の、最も危険に晒されている子供たちの率の多い地域に大学進学予備校を造りました。「私にとってテニスは踏み石に過ぎませんでした。子供たちの生活を変えることが、いつも私が望んでいたことでした。」とアガシは言います。

クリントンは、会社でのキャリアを下取りに出した人々のことを、そして与えることによって今経験している達成感について書いています。彼は、エネルギー効率の良い実践、環境に優しい先進的な企業、公正な賃金と立派な勤務環境の世界中での促進について書いています。彼は、私たちに、与えることの最も重要な方法のひとつは、政府の方針を変える、改善するあるいは守ることの努力だと示しています。彼は、私たちが個人としてできること、私たちが取ることのできるステップ、私たちがどれほど与えることについて考えるべきかそして私たちが与えることが何故それほど重要なのかをについて要点を述べています。

「私たちは皆、偉大なことを行える能力を持っています。」とクリントン大統領は言っています。「私の望みは、この本の中の人々とストーリーが精神を高揚し、心に触れそして市民が行動し奉仕することが、世界においての変化の力強い担い手となることを明らかにすることです。」

(A Goodreads Review)



ムン・サン-ボン次期国際会長が国際赤十字赤新月社連盟を訪問

最近スイス・ジュネーブの国際本部を訪問した際、ムン・サン-ボン次期国際会長とリー・ハイソック夫人が国際赤十字赤新月社連盟 (IFRC) にてスタッフに歓迎され、IFRCのマラリアに対する戦いにおける最近の仕事について聞きました。すなわち、210万張りを超える蚊帳の保健省、中央アフリカ赤十字とパートナーによる中央アフリカ共和国 (CAR) での配布の話です。



次期国際会長ムン・サン-ボンがIC2018の土産を国際赤十字赤新月社連盟のジェミラ・マハムッド氏に手渡しているところ

何十年にもわたる政情の不安定と最近起こった極度の民族間、宗教間の暴力によってCARは世界で最も困難な運営環境となっています。このような状況にも関わらず、3地区における蚊帳の配布は90%の所有率と80%の使用率を達成し、アフリカ諸国での巨大キャンペーンの多くを凌いでいます。高速モバイルフォンデータ収集システムはモバイルフォンを用いて、CARの保健センターに、説明責任を果たすこと、必需品の廃棄処分を限定すること、薬品の在庫切れを減少することおよび素早く影響データを提供することを可能にしています。

IFRC訪問時にムン次期国際会長は事務次長のジェミラ・マハムッド氏に6万スイスフランの小切手を贈呈しました。また、韓国ヨスでの2018国際大会の土産も彼女に手渡しました。

ワイズメン国際協会は、2008年からロールバックマラリアパートナーシップを支援しています。過去10年において、私たちの基金は、長持ちする殺虫剤が塗られた蚊帳のシエラレオネ、タンザニア、トーゴでの重要な大

規模配布およびタンザニアにおける配布活動の動員を支援してきました。2000年以降、世界中で10億張りの蚊帳が配布されていますが、その一部はYMIクラブの2010年以降の57万スイスフラン寄付のおかげです。

YMIの支援は私たちの主要なパートナーであるIFRCから高い評価を得ています。彼らは依然として残っている空白地域の多くを埋めるために私たちの寄付

に頼っています。トーゴを例に採ると、過去、「蚊帳空白地域」がありました。ロメとゴルフエの都市部および郊外と地方の間の地域でした。ノルウェー赤十字社、国連基金そしてワイズメン国際協会からのお金がさらに多くの蚊帳の購入の確保に使われることでしょう。

さらに詳しい情報は以下で入手できます。

ワイズメン国際協会: www.ysmen.org/rbm

IFRC: <http://www.ifrc.org/malaria>

世界保健機関 (WHO): <http://www.who.int/malaria/media/world-malaria-report-2017/en/>

ジェームズ・オレ 国際本部



ワイズメンインターショナル

ワイサービスクラブズインターナショナル公式誌

国際本部: Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス

国際編集長: コシー・マシュー

日本語版翻訳グループ: 田中博之 (委員長、東京多摩みなみ)、

青木一芳 (千葉)、今城高之 (横浜つづき)、利根川恵子 (川越)、

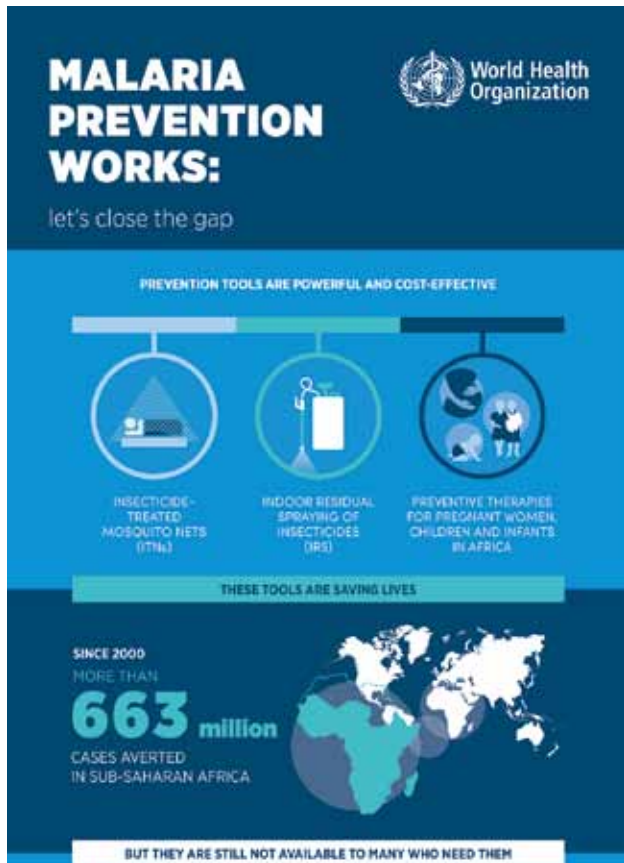
太田勝人 (東京世田谷)、倉田正昭 (京都)、

谷川寛 (大阪センテニアル)、谷本秀康 (東広島)

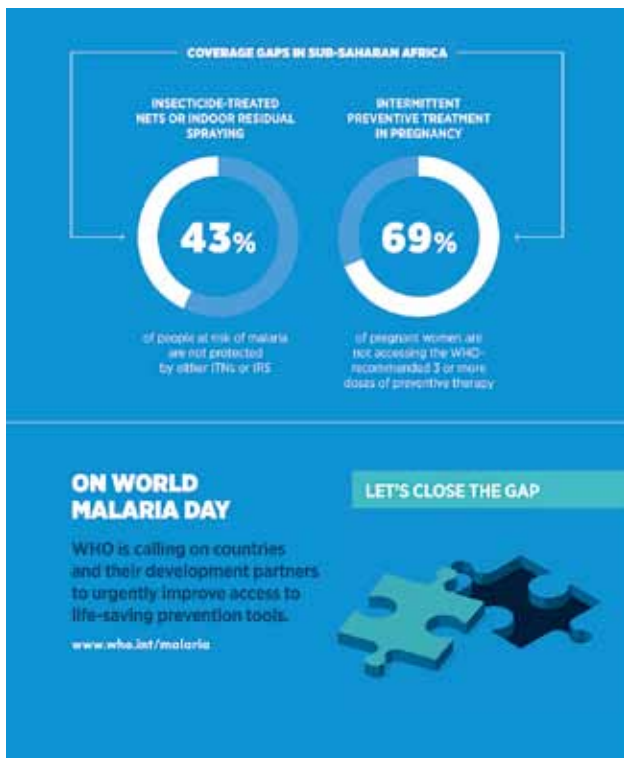
印刷: (株)三浦印刷所 三浦克文 (岡山)

次号の寄稿締め切り: 5月30日

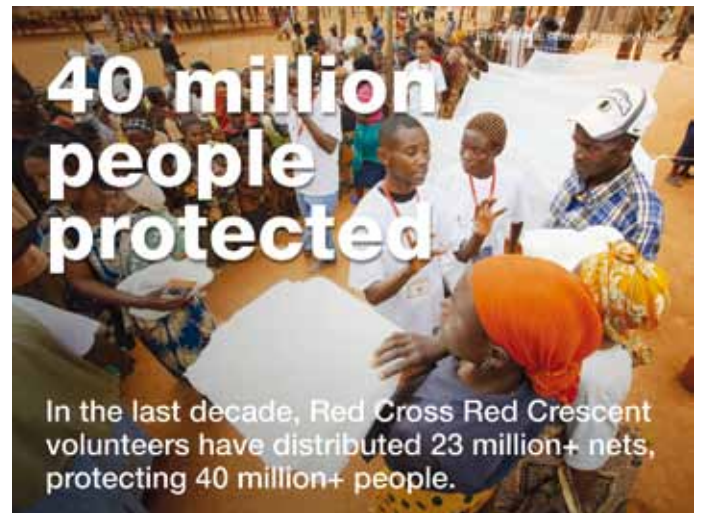
多くのことがなされてきたが、まだもっと多くのことがなされねばならない



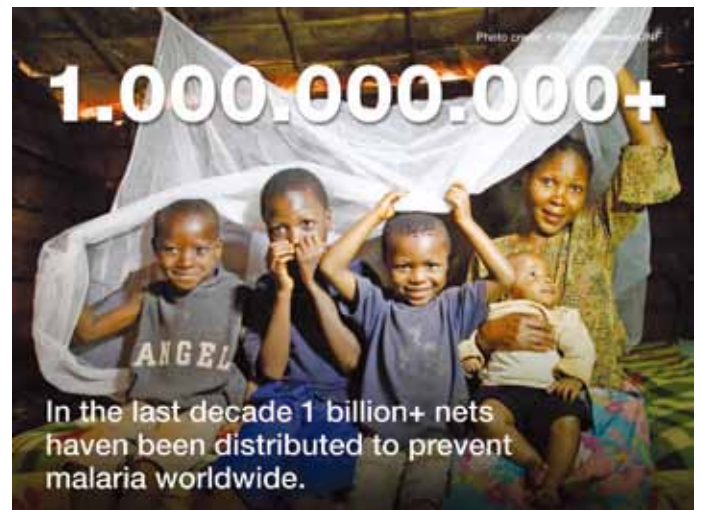
蚊帳の配布／薬剤の室内散布／妊婦、児童、乳幼児への予防措置
2000 年以降、6.63 億人のサハラ砂漠以南の人々の感染を防いできた。



サハラ砂漠以南の人々の 43% が未だ蚊帳や薬剤の室内散布を得ていない。69% の妊婦が WHO 推奨の予防措置を受けていない。



この 10 年で赤十字社、赤新月社のボランティアは 2 千 3 百万以上の蚊帳を 4 千万人以上の人々に配布してきた。



この 10 年で 10 億以上の蚊帳が世界中のマラリアを予防するために配布されてきた。

TO BUILD A BETTER
WORLD FOR ALL HUMANKIND



全ての人類のためにより良き世界を築くために
クラブの目標を定めて惜げなく寄付をしましょう



“基金増強が緊急に必要”

世界マラリア報告 2017 からの抜粋

世界保健機関(WHO)2017年11月発行の「世界マラリア報告 2017」は、2016年末までになされた世界のマラリアとの闘いの進展状況を総合的に発表しています。マラリアプログラム・研究への投資の進展を、他の多くの要素の他に述べています。

以下に、この報告の重要な点をいくつか転載して、ロールバックマラリアパートナーシップにおいて分かち合うべき課題と基礎知識にしたいと思います。このレポートは、私たちのような組織に対して更なる努力への呼び掛けです。(編集長)

マラリア制御と撲滅のための投資

2016年にはマラリア感染国の政府と国際協力団体によって、マラリア制御と撲滅の努力のために約27億米ドルが投資されました。2016年の投資のうち大部分(74%)はWHO アフリカ地域に、次いで南東アジア(7%)、東地中海と米州(各6%)、そして西太平洋(4%)の各WHO地域に投じられました。

感染国の政府は2016年に基金(8億米ドル)のうち31%を貢献しました。

米国は2016年に10億米ドルを拠出し、国際マラリア資金調達で最大(38%)の貢献国となりました。英国、フランス、ドイツ、日本等がこれに続きます。

投資の展望

2010年以来マラリアへの基金づくりは比較的安定しているとはいえ、2016年の投資レベルは、GTS(2030年までにマラリアをほぼ撲滅する目標を定めたグローバル技術戦略)の最初の中間目標、すなわちマラリア発生率と死亡率を2015年のレベルに比べ2020年までに最小限40%は削減する、という目標から遥かに遅れているのです。

この中間目標を達成するには、同戦略では2020年までの毎年の基金づくりを65億米ドルに増加させることが必要であると見込みました。2016年に投資された27億米ドルは、その金額の半分より少ない(41%)のです。

マラリア研究と開発のステップアップが同戦略の最終目標達成の鍵となります。2015年には5.72億米ドルがこの分野に使われました。これは研究と開発の年間必要予算の83%に相当します。

マラリア必需品の配布

殺虫剤処理の蚊帳: 2014年から2016年までの間に、殺虫剤処理の蚊帳(ITN)5.82億枚が製造者から全世界に配送されたと報じられています。このうちの5.05億枚

はサハラ砂漠以南のアフリカに配達されましたが、これに先立つ3年間(2011-2013)には3.01億枚が配布されたことと比較されます。

アフリカ諸国のマラリア制御計画の報告によると、2014年から2016年までに、大量配布キャンペーンによって蚊帳(ITN)の75%が配布されました。

マラリアの予防

サハラ砂漠以南のアフリカ中で、ITNを最低1張り所有している家庭の割合は、2010年には50%だったが、2016年には80%に増加しました。

ただし、家族数に見合った数(2人に1張り)の蚊帳を持っている家庭の割合は2016年時点で43%とまだ不十分な状態です。

アフリカではマラリア感染地域住民の多くが蚊帳の中で眠るようになっていました。2016年には全住民の54%がこの予防手段により護られました。この割合は、2010年には30%でした。

アフリカのマラリア感染地域のより少ない住民が家屋内スプレー(IRS)で保護されています。これは殺虫剤を家屋の内壁にスプレーする予防法です。このIRS法は世界的には2010年の5.8%をピークとして2016年には2.9%まで減少しました。WHOのどの地域でもこの

“世界のマラリアへの対応の歩みは疑いもなく失速しています。この対応を再度軌道に乗せるには、国際的支援団体からと感染国自らの基金づくり増進が緊急に求められています。”

ペドロ・アロンソ博士(WHO世界マラリア対策部長)

の現象は見られます。特にWHOアフリカ地域ではこの予防法の対象が2010年の8千万人から2016年には4千5百万人にまで減りました。IRS法は、諸国が殺虫剤をより高価な化合物に転換するにつれ適用範囲が狭まっています。

予防療法

アフリカのマラリア中高度伝染地域内の妊婦を護るために、WHOは抗マラリア剤による「間欠予防療法」(IPT)を推奨しています。この療法の適用が必要とされたアフリカの23か国で、2016年には適用可とされる妊婦のうち19%の人が必要量である3回以上、錠剤を投与されました(2014年は13%、2015年は18%)。

2016年にはアフリカのサヘル地域の12か国に住む千5百万人の幼児が季節的マラリア予防投与(SMC)により護られました。しかし主に基金不足のため、残りの千3百万人の幼児はその恩恵外でした。WHOはこの地域の高度感染地の3~59か月の幼児に、SMCを2012年以来推奨しています。

2018/19年度の次期国際会長誕生



2018/19年度の次期国際会長として、オーストラリア区(アジア太平洋地域)所属のジェニファー・ジョーンズさんが選任されました。これは、2月にチリで開催された年次会議の際にアナウンスされました。ジェニファーさんは、米国のラクエル・リーグさん、カナダのジョアン・ウイルソンさんに次ぐ3人目の女性国際会長で、また、1922年以降これまでに、ブルース・プライスさん、アーサー・カウリングさん、デール・フォザリンガムさんの3名がオーストラリアから国際会長に選任されています。

共有すべきメール

記憶すべき「前文」

国際憲法審査委員会委員長として、私は、世界中の地域や区から定款の改訂案に対して助言や勧告を求められ、慎重に検討した上で国際議会に上程します。

最近受け取った東日本区定款改訂案のファイルを開いた瞬間、私はその「前文」に大変感動し、直ちに、これを、ワイズ全組織のクラブやクラブメンバーと共有したいとの思いに駆られました。

現在、多岐に渡るコミュニケーション手段が使われている中、YMI Worldの1ページこそ、皆さんにお知らせする最も適した媒体です。

この東日本区憲法「前文」は、ワイズメンズクラブ国際協会の本質、クラブの役割、区や部の役割、クラブメンバーの目的などを端的に要約しています。これこそ、より良い世の中に向けた我々の愛の奉仕の完璧な定義であり、これを皆さんと共有することは私の喜びであり光栄とするところです。

シルビア・レイエス・デ・クロチ

改訂東日本区定款前文

この定款は、ワイズメンズクラブ国際協会の憲法に基づき、東日本区および区内の各クラブの発展を願い、東日本区の組織と運営の基本を定めるものとして制定されました。

ワイズメンズクラブの活動の主体は、それぞれのクラブです。区および区内の各部は、各クラブがより豊かな活動を進めること、クラブ間の連帯、交流を深めることを支援するために存在しています。

私たちのモットーは、「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」です。このモットーのもと、私たちは、国、世代、性別、宗教等の違いを乗り越えて多様性を認め合い、YMCAおよび広く地域社会に貢献します。

世界のそして私たち東日本区の会員は、相互の絆を深め、愛と奉仕を通して、世界の平和と人類の幸福の実現に寄与することができるよう、絶えず努力を続けていきます。

告知

TOF-GPF(TOF 国際事業基金)

TOF-GPF委員会T・M・ジョーズ委員長は、オンライン申し込みフォームの認知度が高まったことを歓迎しています。彼によると、従来の「Word」フォーマットの受付は2018年が最後の年であり、新たな申し込みの締め切りは毎年3月15日と決められています。TOF-GPF委員会は、受領した申込を評価し、締め切り日より1か月以内に国際議会に対して勧告を行います。

リーダーシップ開発プログラムの世界的機会 (GOLD 2.0)

デビッド・ホール特別委員会(タスクフォース)委員長は、現在、数多くの見直しと改訂を経てカリキュラムが完成したことを発表しました。若い会員による試行が、ケニヤ、カナダ、ジャマイカにおいて実施されています。双方向手法を使った実験に対する最初の反応は極めて良好で、大きな変更はパワーポイントを見ることと註を付けることだけであり、ホール委員長は、次のレベルに移行する時であると述べています。

ワイズメン国際協会による炭素排出量削減事業基金の利用が可能になりました。

ワイズメン国際協会、あるいはその他の炭素排出量削減活動に関し、全ての地域、区、部およびクラブは、事業活動計画書を提出するよう要請されています。

1件5千スイスフラン未満の案件は、5千スイスフランを上回る計画より有利に扱われます。毎年の申し込み締め切り日は3月15日です。

評価基準は以下のとおり:

- *温室効果ガスのトン当たり削減費用
- *温室効果ガス削減率測定方法/評価方法の費用および容易性
- *事業の前期および後期のそれぞれにおける削減総量および削減率
- *事業のワイズメンズクラブ国際協会、YMCAおよび地域社会に及ぼす利益

手順

事業計画は、所定の書式により、グリーンチームのグリーンランビエ委員長に提出してください。グリーンチームは、評価基準に適合する適切な事業計画の優先順位付けを行い、国際議会に勧告を行います。国際議会は、予算範囲内に収まる事業計画を承認します。

詳細は、以下webサイトにより検索できます。

<http://www.ysmen.org/environment>



「今日もこれからもモットーを生きる」



直前国際会長 ジョアン・ウィルソン
ワイズメンズクラブ国際協会 (YMI) のメンバーであれば、誰でも、いつでも、どこでもモットーをそらで暗唱できると思います。しかし、モットーが私たちにとって実際どのような意味を持つのかをそれほど頻繁に考えることはありません。このモットーが一人ひとりに当てはまる、様々な見方があることをちょっと考えてみましょう。

ほとんどの人にとって、一番先に心に浮かぶのは、YMIのメンバーとなる権利を得るためには、国際会費を払うという義務があるということです。このことは、私たちの基本的な責任であるにもかかわらず、あまりにも頻繁に、私たちのクラブや、あるいは区全体でさえ、会費納入の規則に従わなかったり、あるいは会費の納入が極端に遅れたりすることが指摘されています。全員で協力してこの流れを変え、確実に会費を常に支払うようにし、しかも期限内に納入するようにしましょう。そうすることが私たちの義務です。

会費を払う義務に伴って国際事案の選挙で投票する権利が与えられます。残念ながら、グッドスタンディング(メンバーが15名以上いて、3期連続して会費を納入しているクラブで、その結果、投票する権利のあるクラブ)のクラブの多くが、事案を検討し、実際に投票する時間を割いていません。実のところ、メンバーが注意深く考え、賢い決断をすることによってのみ最善の選択ができるのですから、選挙権を行使することは義務であると考えるのが妥当でしょう。クラブの国際選挙の投票率を上げるように皆で努力しましょう!

私たちのほとんどが、「おのれの欲するところを人に施せ」という教えの「ゴールデン・ルール」を知っています。これは、明確にキリスト教の教えの一部ですが、他の主な宗教の聖典にも同様の心情が見られます。私たち一人ひとりが尊敬と親切の念をもって扱われる権利があると思うのと同じように、私たちには、自分自身よりも助けを必要としている人々を助ける義務があります。世界中の平均かまたはそれ以上に裕福な環境にある人々すべてがこの他の人々を支援する義務を自覚したら、何が起るかを想像してみましょう! 私たちの奉仕する力が強くなるように、より多くの思いやりのある人をクラブに入れましょう!

私たちの一人ひとり、大小にかかわらず、幸運にも何らかのスキルや能力を与えられています。これらのスキルや能力を、使うか使わないかの権利は自分たちが持っていることを認識する一方で、それらを有り難く思うかどうか自分たち次第です。YMIのメンバーとしての義務の一つは、必要に応じて、クラブを発展させたり、貧困にある人々を助けたり、プロジェクトを立ち上げたり、他の人々の模範になったりなどして、自分の能力を活用することです。ここ何年か、国際執行役員として旅をする中でよく聞いたことは、あの人は素晴らしいクラブ会長(あるいは部長、理事、プロジェクト・コーディネーターなど)になるであろうに、その任に就く義務を拒否し続け

ているという話です。最も有能なメンバーに、これはあなたのことを言っているかもしれないということ意識させ、役職や責任を受け入れるように勧めましょう、そしてそうしたからには、私たち全員が、彼らが成功するように支援し援助することを義務としましょう。

私の敬愛するワイズの友人の皆さん、世界中に広がるYMIファミリーに入ることは素晴らしい特権であることを認識することが重要です。そうすることによって、私たちは驚くほど素晴らしい権利を手に入れることができます。しかし一方で義務も受け入れなければなりません。皆さん一人ひとりが参加をし、義務を認めて実行するとともに、すべての権利を凌駕するよう期待します。各々がそうすれば、仕事や責任を分かち合うことになり、必ずやYMIが今日からずっと変化していくのを見ることができるようでしょう。「手を取り合えば、もっと多くのことができる」をどうぞ忘れないで下さい!

「重点を正しく認識しよう」

私たちのモットーである「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」の中で重点はどこにあるでしょうか。ワイズメンズクラブ/Yサービスクラブの中で考えれば、多分最初に心に浮かぶのは「私の権利」でしょう。ほとんどの場合、私たちはその権利から「私たちの義務」を連想することはありません。これは、仕事やその他の場面で対立する状況の時によく起こることですが、人間は「義務」を理解すること無く「権利」を得るために戦う傾向があります。



しかし、私たちはこのモットーを、ボランティアからなる組織としてのワイズ運動の中で考えなければなりません。その場合、この組織が発展し、目的や使命を達成できるように、重点は、「私たちの義務」にあることを疑う余地はありません。私たちのような世界的な運動が機能し、しかもボランティアが多大な責任を果たして発展してきたことを思うと驚嘆するばかりです。一般の会員、クラブのリーダー、部長、理事、地域会長、国際議会議員、国際会長のすべてが協働してボランティアとして努力し、この組織が必要とする「個人の義務」を遂行することによって、事業の目的や組織の使命を達成しています。

もちろん、「義務」と「権利」のバランスをとることは重要です。すべてのYMIの会員は、様々なリーダーシップを伴う役職に選ばれる「権利」があり、組織の様々なレベルに参加する「権利」があります。しかし、組織の活動の中で「権利」が優先されると、組織内での対立に陥り易いです。このような対立は調和のとれた組織内での活動を促進することはありません。反対に多くの場合、組織にとってネガティブな対立を生んでしまいます。

この考察の最初に述べたように、私たちの組織が発展し、目的や使命を全うするには、「私たちの義務」に重点を置くべきであることに疑問の余地はありません。

前国際書記長 ロランド・ダルマス

ヨーロッパ：デンマーク区の国境を越えた奉仕

コソボでのイベント尽くしの1年

あらゆる点で、ハルデルネス・ワイズメンズクラブが主催している「コソボにおける自助への支援」プロジェクトにとって、2017年は良い年でした。このプロジェクトの実施には、経済面も含め、デンマーク区の多数のワイズメンズクラブによって支援されています。

今年の目標は、地区のプロジェクトを通して、子ども、青少年、(低収入、シングルペアレントなど)弱者の家族のために、ギアコヴァにキャンプ場を建設する資金として、525,000デンマーク・クローネ(約87,000米ドル)を集めることでした。資金集めは目標を達成し、それ以上を集めることができました。資金は、70万デンマーク・クローネ(115,700米ドル)となりました。そこでYMCAは理想的な選択肢として、ギアコヴァの郊外にあるとても風光明媚なキャンプ場の土地を買収しました。YMCAは、その土地に、2018年春にもキャンプ場の建設を始めようとしています。

2017年には、ハルデルネス・ワイズメンズクラブは、コソボのYMCAの活動拠点であるギアコヴァに約6トンにおよぶ緊急支援のリサイクル物資を送りました。ドリーナルカさんが中心人物で、コソボのYMCAの成長や発展の立役者です。弱者の家族や貧困に苦しむ家族への無料の緊急支援物資の配布に加えて、贈られた物資はギアコヴァのチャリティショップで販売もされました。収益はほとんど、毎週集まってくる600人の子どもや青少年の活動に使われています。



上記で述べられた物資に加えて、デンマークの巨大な玩具メーカーであるLEGOから、100人の子どもが一度に遊べる、組み合わせて遊ぶプラスチックのブリックが、段ボールで12箱寄贈されました。コソボのYMCAのセンターやキャンプ事業にとって素晴らしいニュースです。



コソボへの輸送を待つ、積み上げられた物資の山

また、大変うれしいことに、2017年には経済的な状況が好転し、YMCAがユニクとペヤで子どもや青少年対象の事業を始めることができました。ペヤでは、市が無料で提供してくれる場所にリサイクルショップをオープンする予定です。

ハルデルネス・ワイズメンズクラブ アルネ・ニールセン

ラトビアへの人道的支援



1年に2回、デンマーク地区のレムヴィー・ワイズメンズクラブとワイズメネットワーククラブは、ラトビアのツェーシスとリーヴァーニのワイズメネットに、トラック1台の人道的支援物資を送っています。

韓国：全ての写真が物語る



Gunsan Jinpo ワイズメンズクラブ(韓国 Chonbuk 区)はジャン・サン・ブック会長のリーダーシップの下に、US\$16,000 を低所得者層家族の中の10代の若者に視野を広げてもらうと共に、国際親善を果たしてもらえよう海外旅行への支援提供を行いました(写真左)。これは、同クラブが毎年行っているプログラムです。同様に、年末には、所得の厳しい方々に US\$6,000 を提供し、安全と健康維持に最低限必要とされる品物の購入に金銭面での支援をしました。



(左)冬が到来しますと、Yeosu Ocean ワイズメンズクラブの会員は街に出て、冬の厳しさと闘っている極貧層の方々に練炭を提供しています。(右)韓国 Jeonnam 区、Yeosu 部、Hanryeosundo ワイズメンズクラブの定例活動として、2012年のチャーター以来、毎年献血活動をしています。



Kimhae 部の Kimhae ワイズメンズクラブは、Kimhae YMCA と協働して 2017 年 10 月に 3 日間にわたる第 14 回アジア文化フェスティバルを開催しました。この地区に住む多文化家族や、移民労働者などを招待しました。平和音楽祭、フリーマーケット、ヤングバリスタ・コンテスト、絵画コンテストなど文化的な行事を開催しました。Kimhae ワイズメンズクラブはチャリティーのためのファンド・レイズとして食べ物の屋台を出しました。

インド:3,900 足の再生された履物が配られた

南インド区の第2バンガロール部は「靴再生プロジェクト」をムンバイ所在の中古の履物を収集している NGO のグリーンソールとパートナーシップを組んで8月15日から始めました。この試みは単に環境にやさしくてコストがかからないだけでなく、貧しくて履物を買うことが出来ない人達に大変役立っているのです。このプロジェクトは、部内の各クラブの積極的な参加と、部の幹部のコーディネーションの下で実施されました。一旦中古の靴がグリーンソールの工場に送られると、仕分けされ、解体され、靴底はスリッパの土台とされ、靴の上部は靴を形作るための帯革と紐に使われます。

150 袋に入れられた仕掛品は第2バンガロール部によって集められ、マハラシュトラにあるグリーンソールの工場で再生され、3,900 足の靴がマハラシュトラ州の貧村であるパルリ村に届けられました。この靴再生プロジェクトはインド有数の銀行である HDFC 銀行からの資金融資を受けて行われています。

世界中では、3 億 5,000 万の履物が毎年捨てられ、ゴミとして埋立地で処分されています。ユネスコによれば、2013 年だけで約 15 億人がいかなる履物も持たず、100 万人以上の人々が靴を履かないで、不衛生な地面と触れることにより生じる病気で死んでいるのです。

M.セバスチャン、第2バンガロール部プリテン編集長



(左) 部のチーム仲間が中古の履物を収集し終えたところ
(右) 贈呈式での喜びの笑顔

1週間に1食:インドの2つの都市での2つのプロジェクト



コインバールのワイズメンズクラブは、施設に収容されている貧しい人と路上生活を余儀なくされている人に昨年7月から1週間に1食を配っています。



同様に、ホスールワイズメンズクラブはホスール市内の幾つかの病院で貧しい入院患者に100食以上を提供しています。

インドに於ける癌の早期発見への定期的取り組み



チェンナイのアンナナガール西ワイズメンズクラブのカナカム・シャナルダンメネットは、女性の健康について熱心な方です。医師ではありませんが、彼女は出来るだけ大勢の女性に癌の早期発見のための検査を受けてほしい、と取り組んできました。過去 35 ヶ月かけて彼女は、アディアル癌センターの支援を得て市内の経済的に貧しい地域に住む方々のために 60 箇所以上の「癌早期発見の為に」仮設小屋(キャンプ)を設けるスポンサーや趣旨に賛同する人達を見つけてきました。以上 2 つの写真はそれを示しています。

USA:感謝の気持を持って



カリフォルニア州サンディエゴ部にあるノース・コースト Y サービスクラブは、キャンプ・ペンドレトンに住む軍の家族の皆さんへの感謝の印としてポインセチアの花鉢 100 鉢を贈りました。同 Y サービスクラブは、3 月には軍に入隊して基礎訓練を終えた男女の青年に対してランチをご馳走しました。

カナダ:フードバンクを支援



ピクトウ郡にてフードバンクを行っているレイモンド・ハynesさんは、ピクトウカウンティYサービスクラブのムレイ・ダンバー会長から小切手を受け取りました。こちらを向いているもう一人は、同クラブのサンディ・レイノルド書記です。

フィリピン:義足・義眼等でご不自由な方へ



マニラダウンタウンワイズメンズクラブは、IBC パートナー先の京都パレスワイズメンズクラブと協働して、ケソン市にて義足・義眼等でご不自由な方をこまめにケアされる方々への慰問をしました。患者さん達は食料等の贈り物を受け取り、ランチを皆で一緒にいただきました。

ヘンリー・グライムズ — 私たちの運動の羊飼い

(1963年にジェイソン・マッコイ国際会長とポール・ウィリアム・アレクサンダー名誉国際会長から寄せられた賛辞を抜粋、まとめたもの)



かつてそこに一人の男がいました。彼は、最近マサチューセッツ州のローレンスワイズメンズクラブに入会しました。そして、1925年に開催されたテネシー州チャタヌーガの国際大会に初めて参加しました。それは彼にとって単なる国際大会以上のものでした。

彼は、ワイズダムというYMCAに根ざしたキリスト教奉仕活動を目のあたりにし、気に入りました。そしてその中にある可能性が彼の心を動かししました。1925年に書記・会計に指名され、その可能性が高まりました。ワイズ運動においてそれまで、彼が選ばれたこと以上に素晴らしいことはありませんでした。

彼は、自宅の地下にワイズの事務所を設け、パートタイマーを雇いました。会計として、彼はどれくらいたくさんのお金を使えるか、またどれくらいお金が無いか(通常は後者ですが)を知っていました。

彼は正確に記録を残し、半期ごとに報告書を残しました。何千もの手紙を書き、相談を受け、またアドバイスもしました。そして、大会には必ず出席しました。彼は「ミスター・ワイズマン」と呼ばれるようになりました。

ヘンリー・グライムズは、ワイズダムという時計の動力であるゼンマイと调速機を備えていました。彼はいつも自分の指に運動の鼓動を感じていました。彼は山のような強さを持ち、分厚い一枚岩のような知恵を持ち、大海のような励まし力を持っていました。彼は誰も知らなかった私たちの問題を知っていました。もし、答えがあるならば、彼はすでにそれを知っていたでしょう。そして、彼は自分自身がやらないことを決して他人に押し付けることはしませんでしたし、さまざまな知的洞察力を持って行動を起こした男でした。

彼は、時間が許す限り与えに与えました。彼は熱意を高めながら奉仕しました。彼は儲かる仕事を投げ捨てて、この活動で初の常勤の書記会計になりました。彼は、今日、6大陸の39カ国の人々にサービスを提供している運動の羊飼いになったのです。

創造主は、今、彼が天にもどるのに相応しい時期だと感じました。しかし、ヘンリーが、残された役員やリーダーたちにだけでなく、ワイズダムはワンマンショーではなく沢山の側面があり、沢山の人の手による運動であることを思い出させつつ、すべてのワイズメンに対して、続けていくことを促すのが聞こえます。私たちの運動が築かれる土台となる永遠の真理、永続する本質、その存在に織り込まれた思

慮深い倫理感、どんな死によっても消えたり、弱体化したりしないものです。

私たちは権利と義務を共に、また、別個に持っています。もしも、彼がまだ私たちと共に座っていたとすれば、彼が私たちにしてくれたであろう様に、それらの真実を追い続けていきましょう!

ヘンリー・ダスティン・グライムズの人生は、1897年12月28日から1962年12月27日までの65年間でした。



グライムズが住んでいた家。その地下室には広く世界に根を張った運動となるための彼のオフィスがありました。

世界友好の旅

国際協会は、世界中の紛争激化に対し大きな懸念を持ち、「世界友好の旅」を支援するよう提案しました。その旅は、ヘンリー・グライムズと大切なアシスタントである彼の妻、アグネスによって行われました。ヨーロッパ、アフリカ、オーストラリア、アジアのワイズメンズクラブを訪問して、新しいクラブを創設したり、組織とその奉仕活動が世界の利益に役立つための情報を集めるのがその目的です。

世界中のクラブから、会員1人当たり1.5ドルの寄付を得て旅費をまかないました。この旅は、旅程の地図と、現在までの拠出金でどこまで旅することができるかを、ワイズメンズワールド誌を通じて毎月報告されました。

この提案では、拠出金が旅程を満たすことができなかった場合、その差額は、国際事務局から補填されるというものでした。はるか中国にまでの旅費が拠出されましたが、世界情勢の急激な悪化で、旅全体は完結しませんでした。

したがって、1930年代の10年間の後、ワイズメンズクラブ国際協会がより良くなる前に国際危機に晒されたのです。しかし、国際協会は驚くべき成長を果し、YMCAおよびワイズメンズクラブが根ざす地域社会において、強力で効果的な国際的奉仕組織としての力を築き上げました。





食料の浪費をなくせば世界の飢餓を救える

重量換算で全世界の食料の3分の1が腐らされたり、捨てられています。これらの食料は、生産段階で、または、食する過程で捨てられており、国連食糧農業機関(FAO)の推計ではその金額は年間9千4百億ドルに達すると報告されています。

世界資源研究所会長のアンドリュー・ステアは、「このような大量の食料が無駄に捨てられて良い理由はまったくない」と言っています。

食料の浪費、廃棄について、私たちは次のような重要な事実を知るべきです。

*毎年全世界で人間の消費のために生産される食料の約3分の1—13億トン—が無駄に捨てられています。

*食料の浪費、廃棄金額は先進工業国で6千8百億ドル、開発途上国で3千億ドルに達しています。

*先進工業国、開発途上国はほぼ同じ量の、6億7千万トンと6億3千万トンが無駄に浪費しています。

*果物、野菜、さらに根菜類、ジャガイモ類は、食料のロスの中で最も高い比率を占めています。

*食料の中で世界的に年間浪費、廃棄率の高いのは、穀物類で30%、根菜類、果物、野菜で40～50%、油脂類、肉類、乳製品で20%、魚類で35%となっています。

*毎年富める国の消費者は、サハラ砂漠以南のアフリカ諸国の全体の生産量(2億3千万トン)とほぼ同じ量の食料(2億2千万トン)を無駄にしています。

*毎年浪費、廃棄されている食料は、世界の穀物生産(2009/2010年で23億トン)の半分に匹敵します。



世界で生産される食料の1/3が捨てられている。

捨てられている13億ポンドの食料で300万人の食料を賄える。

毎年8億5千万人が飢えている世界で、食料の浪費は意味をなさない。

英国では「孤独問題」担当大臣を任命 — それほど孤独問題は深刻化

英国では「孤独問題」が深刻化し、そのため「孤独問題担当大臣」を任命しました。「孤独問題担当大臣」というと、新しい歌や「指輪物語」の登場人物を連想するかもしれませんが、現在深刻化する問題に対処する役割です。

今年1月17日、メイ首相は、この大臣職の創設を発表。メイ首相は、「実に多くの人々にとって、現代社会では孤独問題は憂うべき深刻な問題である」と言及しました。英国では9百万人以上の人々が、常にまたはしばしば孤独と感じているという統計を引用しました。

孤独と感じているのは、英国人だけではありません。ハーバード・ビジネス・レビュー誌で、第19代米国公衆衛生局医務長官(2014-2017)だったヴィヴェック・ムラフィー氏は「孤独は今や流行性の伝染疾患になってきている」と言及しています。私たちは文明の歴史で、今や最もテクノロジーと繋がった時代に生きているが、1980年代より、現代は孤独な人々の数が倍増している」と言っています。同氏は、さらに「今日、アメリカの40%以上の人々が孤独だと感じており、調査では、実際の数では40%を遥かに超えるであろう。」とも言っています。

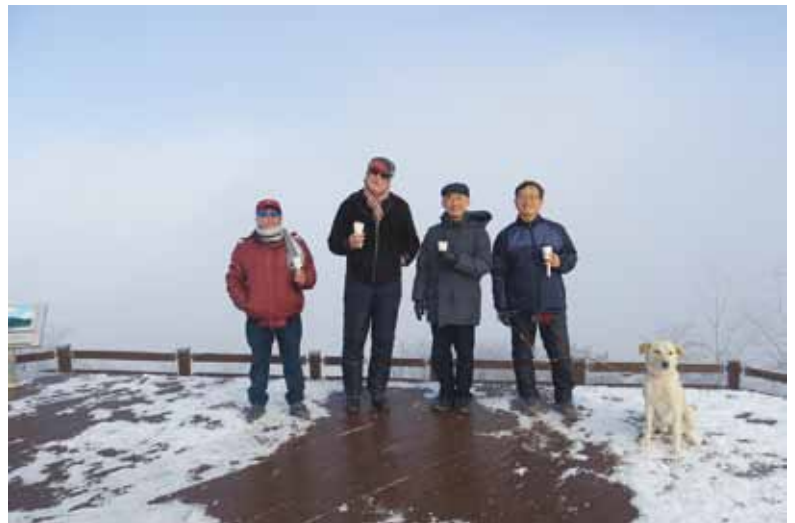
孤独問題は、一種の伝染病であり、単なる孤独を歌った歌のタイトルに終わりません。孤独問題は、数々のマイナスの健康問題を惹起します。例えば、自分だけが他から孤立していると感じることは、睡眠障害の危険、薬物中毒、うつ病、そして自殺のリスクを高めるかも知れません。自分が孤独であると感じることは、ストレスホルモンや血圧を高め、様々な難しい障害や問題に立ち向かう能力を減退させます。さらに、健康に食し、運動を続け、医者からの診断を受けるなどの健康的な生活スタイルを維持することが、社会的支援が得られない環境では困難となります。

現在の英国のスポーツ・市民団体活動担当大臣(クラウチ女史)が新しく創設される孤独問題担当大臣を兼ねます。もちろん、彼女の職責は、孤独患者を増やさないということですが、彼女の孤独問題との闘いは孤独ではありません。彼女は、英国における孤独問題に立ち向かうための総合的戦略の開発を行ったり、革新的な解決策および地域社会が孤独問題と闘うための基金創設などを含めたいくつかの新しい取り組みを先頭に立って支援しようとしています。



朝鮮半島の平和

非武装地帯は、北緯38度線に沿って朝鮮半島を東西に分断しており、世界で最も嚴重に武装されている軍事境界線の1つです。この軍事境界線の両側にある2マイル(約3.2キロ)の非武装地帯は、自然およびうんざりするほど多くの地雷、罠だけの世界で、韓国と北朝鮮の軍隊によって嚴重に監視されています。この非武装地帯には、何人たりとも入る事を許されていません。この非武装地帯の南側には、更に民間人出入統制区域と呼ばれる防衛線が設けられています。この幅は5~10マイル(約8~16キロ)で、北朝鮮からの侵入に備える更なる緩衝地帯として設けられました。韓国軍は、この民間人出入統制区域を注意深く監視しています。農民、観光客、限られた地元の団体は、許可を得れば日中だけこの区域に入る事を許されます。彼らが民間人出入統制区域に出入りする際には、軍事検問所で名前を登録しなければなりません。



再統一と平和を祈るためにソイ山頂上にいる我々の小グループ

民間人出入統制区域の奥まった場所にチョルオン村があります。1950年から1953年の朝鮮戦争中にこの地域は、韓国軍、北朝鮮軍、アメリカ軍、中国軍の間の最も血生臭い幾つかの戦場となりました。全てが破壊され、現在も地雷が村の多くの場所に埋められたままになっています。多くの道路沿いの壁や旗が地雷原を示しており、旅行者に『道路から外に出ないように』警告しています。

現在チョルオン村に住んでいるのは、ほとんどが韓国軍兵士であり、北朝鮮からの攻撃に備えて韓国を守る責任を負っています。未だにこの村に留まって生活している農民は、すでに地雷が除去された畑で作物の栽培をしたり、もっと多くの畑や菜園を管理したりするために、軍事検問所を通過して民間人出入統制区域に入ります。夜間には、全ての農民が民間人出入統制区域を去り、兵士だけがこの区域に入ることを許可されています。

民間人出入統制区域に入る軍事検問所からそれほど遠くない場所に、かつて米軍の軍事監視所として使われた1,188フィート(約320メートル)の高さのソイ山という丘があります。この丘には今でも秘密の塹壕が散在しており、この見渡しの良い場所から民間人出入統制区域と非武装地帯を越えて遠く北朝鮮まで見渡すことができます。現在は、一般の訪問者に解放されているソイ山は、およそ70年

*マックス・エディガーは、カンボジアで設立された「平和の学校」の運営責任者です。www.mennolink.org/peace アメリカ合衆国メノナイト教会平和・正義支援ネットワーク・ネット出版、PeaceSignsの許可を得て転載。

も会った事のない親戚が住んでいる北朝鮮の禁断の地域を見通したいと思っている韓国の人達の巡礼の地となっています。かつて激しい戦争が行われた、この場所を訪れた人達は、平和と祖国の再統一と北朝鮮に住んでいる家族の幸福を祈ります。

このソイ山では、天候に関係なく、毎日午後になるとジュン・ジセオク博士が、彼の学生と友達の小グループと共に、20分の黙想と再統一の祈りを捧げるために20分かけてこの丘を歩いて上ります。平和と朝鮮半島の再統一は、大多数の韓国と北朝鮮の人々が最優先する悲願です。特に現在、合衆国と北朝鮮の指導者の間で誹謗、中傷合戦が激しさを増しているのではなさらずです。ジュン博士は、世界を創造し、そこに生活する全ての人を愛しておられる神様を信頼するなら、平和の実現は、可能であると信じています。



クラブの指導的立場にあるメンバーは、実施した活動に関する記事を1枚以上の高解像度の写真と適切な短い説明文を付けて国際本部に送られることをお勧めします。記事は、150語(英語)以内でお願いします。読者の皆さんもグローバルな我々の運動に関する関心事について、ご意見や原稿をお寄せ下さい。記事と写真をwww.ysmen.org/yimiworldにお送り下さい。

次号掲載記事の提出締切日：2018年5月30日



ジュン博士は、単に黙想と祈りのために時間を過ごしていません。彼は、非武装地帯最南端の障壁となっている嚴重に武装された軍事境界線から文字通り、石を投げれば届くほどの距離にある民間人出入統制区域内に軍事境界線平和学校を設立しました。この学校は、遠方の北アイルランド、コスタリカ、アメリカの国連平和大学から教授陣を招聘して、3年間で大学院レベルの平和学の学位を授与します。学生達も多くの異なる国からやって来て、この学校で平和について学ぶだけでなく、農民と共に園芸やその他の生産活動に参加します。

ジュン博士は、北朝鮮と韓国の人々は、敵ではなく、彼らが一度も望んだ事のない非武装地帯によって分断された兄弟姉妹であると強調しています。「我々(韓国の国民)は、彼ら(北朝鮮の国民)と話ができる。」とジュン博士は語ります。「もし、世界の列強が場所を提供し、干渉するのを止めさせれば、神の御助けによって、我々は、祖国と国民を再統一できると確信しています。」

そのような発言が元世界YMCA同盟総主事デヴィット・スン博士によって繰り返されました。博士は、第7回日中韓YMCA平和フォーラムでの最近の基調講演の中で「忘れて欲しくないのは、過去2000年に渡る朝鮮民族の歴史の中で隣国への侵略行為は、一度もなかったという事です。この事実が意味することは、そしてこの点を強調したいのですが、もしも日本、中国、ロシア、アメリカなどの朝鮮半島を取り囲む列強が我々に干渉しないなら、自らの平和な関



ソイ山から非武装地帯を越えて北朝鮮を望む

係を維持していけるでしょう。思い出すと心が痛むのですが、朝鮮半島の分断は、朝鮮民族の意志に反するものであり、1950-1953年の朝鮮戦争は、東西冷戦の所産でした。残念なことに、朝鮮戦争は、米国対ソビエト連邦、中国の『代理』戦争だったのです。」

アメリカ国民は、我が国(米国)が最終的に北朝鮮との休戦に調印するのを拒否しているために、また、北を威嚇するために私たちの政治リーダーが挑発的な表現を用いているために朝鮮半島の平和の実現が妨げられている事を認識しなければなりません。再び壊滅的な戦争という手段に訴えることなく、一步身を引いて朝鮮民族の人達の声に耳を傾け、神様が平和と再統一をもたらして下さる事を信じましょう。

2017年12月28日

#YE4
GOOD

19TH YMCA
WORLD COUNCIL

CHIANG MAI, THAILAND

8-14 JULY, 2018

Registration is now open
Details on: www.ymca.int

第19回 YMCA 世界協議会

タイ、チェンマイ

2018年7月8日-14日

登録受け付け中

詳細情報:www.ymca.int

73rd Y's Men
International Convention
Yeosu Korea

- 2018. 8. 9(Thu) ~ 12(Sun)
- Expo Convention Center Yeosu Korea

Youth Convocation

2018. 8. 6 (Mon) ~ 12 (Sun)
Jeonnam University Yeosu Campus



Welcome to Yeosu Korea!
Yes, We Can Change!

第 73 回ワイズメン
国際大会
韓国・ヨス (麗水)
2018. 8.9(木) ~ 12(日)
Expo コンベンションセンター

ユースコンボケーション
2018.8.6(月) ~ 12(日)
チョンナム大学・ヨスキャンパス

ようこそ韓国・ヨスへ!
私たちは変えられる!